

\*\*\*\*\* 2014年7月9日投稿 \*\*\*\*\*

1、概要

入山期間 平成26年7月6日

目的 雪渓を安全に登山できるようにするために、雪上訓練をする。

入山地域 群馬県 谷川岳周辺 マチガ沢・一ノ倉沢

参加者 山岳部 3年 太田貴之 (商学部)  
高橋直道 (商学部)  
2年 上 茂衡 (法学部)  
1年 鈴木陽介 (社会学部)  
針葉樹会 OB 中村雅明 (昭和43年卒)  
藤原朋信 (昭和44年卒)  
前神直樹 (昭和51年卒)

交通機関 行き 上野-(JR高崎線)-高崎-(JR上越線)-水上  
水上駅-(関越交通バス)-谷川岳ロープウェイ駅  
帰り 土合橋-(関越交通バス)-水上駅  
水上-(JR上越線)-高崎-(JR高崎線)-上野

2、行動記録

7月6日(日) 天気 晴れ

0723	JR上野駅 乗車 (JR高崎線 高崎行)	OBから雪渓歩きの資料と地図を頂く。  高橋さんと合流。
0908	JR高崎駅 下車	
0923	乗車 (JR上越線 水上行)	
1029	JR水上駅 下車	
1033	水上駅 乗車 (関越交通バス 谷川岳ロープウェイ行)	
1053	谷川岳ロープウェイ駅 下車	
1054	登山開始	天候良好。少し暑い。駅ではMAMMUTのマンモスのバルーンがあった。道はきれいな森の中で観光バスが行き来している。マチガ沢は上の方に雪があるように見え、一旦登り始めたが引き返した。  一ノ倉沢で雪上訓練することに決定し、昼食。一ノ倉沢では、山開きのイベントで茶会が開かれていた。沢に登
1124	マチガ沢 到着	
1134	引き返して戻ってくる。	
1135	昼食 休憩	
1202	出発	
1226	一ノ倉沢 到着	

1239	雪溪登り 開始	り少し歩くと、雪溪に入る。雪は固く表面には泥が一面にこびりついている。OBより歩き方の説明を受けて、ピッケルで訓練地まで行く。途中、レスキュー訓練の一隊に遭遇。訓練地に到着すると上方で雪の崩落の音が響いてきて危険を感じる。泥だらけだったのでOBに整備していただき訓練開始。前神さんが滑落停止の手本を見せ順番に練習。下方では藤原さんが安全確保。グリセードも練習。途中、右岸から次々と登山客が岩場を下降してきて時々落石。崩落もあり、早々に引き上げる。下りは傾斜に恐怖し、滑落停止の実践を何度かやる。岩場まで下り、雨具を脱いで下山。雨具は泥だらけになった。
1313	訓練地 到着	
1320	雪上訓練 開始	
1410	雪上訓練 終了	
1443	雪溪下り 開始	
1513	雪溪下り 終了	
1520		
1527	下山開始	
1602	あずまや	
1617	土合橋駅 到着	
1617	土合橋駅 乗車 (関越交通バス 水上駅行)	
1638	水上駅 下車	
1645	JR 水上駅 乗車 (JR 上越線 高崎行)	
1748	JR 高崎駅 下車	
	懇親会	中華料理店
1835	JR 高崎駅 乗車 (JR 快速アーバン 上野行)	各自、下車。
2007	JR 上野駅 下車	

### 3、地形図



地理院地図電子国土 WEB より



#### 4、記録写真



▲マチガ沢 到着



▲雪があまりないので方針転換。



▲一ノ倉沢



▲雪溪の様子



▲泥だらけ。



▲訓練の様子





▲訓練中のOBの方々。



▲訓練地の上方を見上げる。崩落注意。

▲グリセードの練習



▲雪渓下りの様子



▲バス停に向かう一行

## 5、感想・反省

高橋先輩が軽いけがをしたようであったが、それ以外は事故もなく安全に実施できた。訓練内容は、滑落停止とグリセードの練習であった。滑落停止はOBの前神先輩の指導で、腹這いの状態で滑りピッケルで停止する訓練や、トラバースからの転倒を想定した訓練などを行った。滑落停止は咄嗟の事態への対応なので、しっかり体で覚えることが大事だ。ピッケルを打ち付けてわきを締めるという一連の動きを数回行って覚えた。

グリセードはOBの藤原先輩や中村先輩が手本を見せて下さり、参加の部員は何回も練習するうちにコツをつかんでいくことができた。自分はまだ、グリセード中の方向の調整や安全に停止することが苦手なので、その点は次回の課題となった。応用技術としての頭から滑落した時の停止方法などは、雪の状況や安全を考慮して実施しなかった。

今回は5月に実施する予定であったが、天候が悪く延期が重なり7月の実施になってしまった。また、一泊の行事であったが参加状況も考えて日帰りにした。時期がずれたことで雪の状況が悪く難儀したが、OBによる天候を考慮した冷静な予定の変更の判断は、今後部員による行事の実施でも見習うべき点であろう。

OBの方の話によると、雪上訓練の基本は今回ほとんどできたので、これからは雪があるたびに時々練習していけば上達するとのこと。もう夏山の時期であるが、今回の訓練の成果が活かされれば、今後の活動の幅が広がることは間違いないであろう。

●2014年7月6日 報告書・今回の反省 藤原 朋信 (昭和44年卒)

\*\*\*\*\* 2014年7月9日メールより転載 \*\*\*\*\*

- 鈴木さん 大変立派な記録が整理できましたね。針葉樹 16 号を発行する時に貴重なデータになります。  
十数年ぶりの雪溪訓練ですので山岳部の歴史でもエポックになりました。
- 中村さん 付記する点:今回の反省として谷川の 訓練時期は雪が柔らかい 5 月下旬から 6 月中旬までに終  
える。訓練場所は落石の少ないマチガ沢とする。  
テント場は旧道沿いでも新道沿いでも可能なので、次回からは一泊 2 日で登山と組み合わせる。